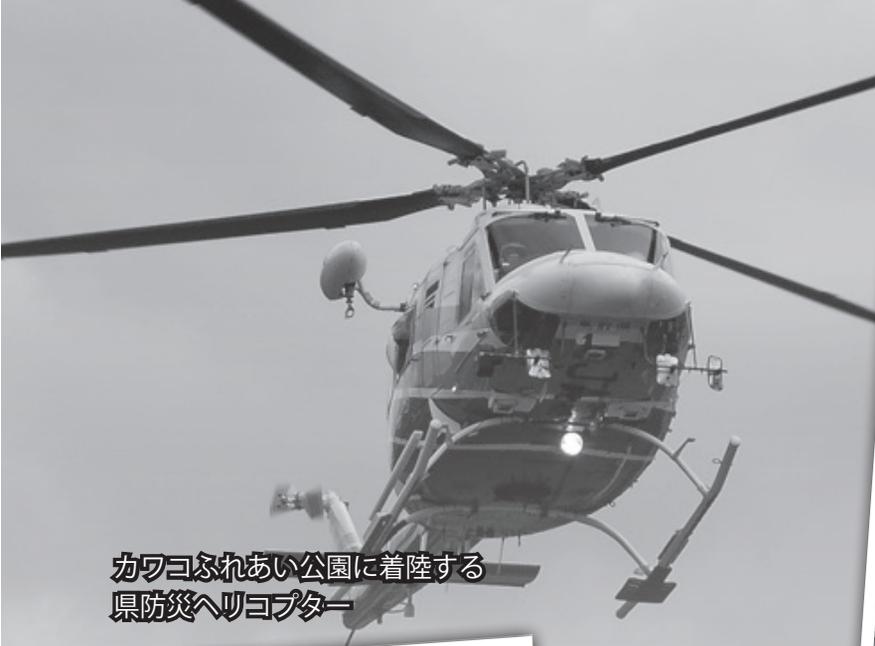
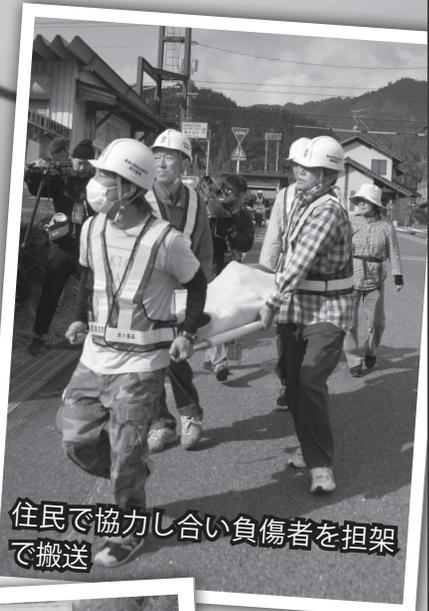


# 全町一斉防災訓練

鳥取県西部地震から15年  
大地震発生を想定し各地区で避難訓練を実施  
災害にそなえる



カワコぶれあい公園に着陸する  
県防災ヘリコプター



住民で協力し合い負傷者を担架  
で搬送



防災ヘリに搬送される負傷者



マップを使い避難場所を確認



テントの中での応急処置

訓練を重ねることにより、防災意識の風化を防ぎ、町災害対策本部と自治会、自主防災組織との連携を強化し、また地域防災力と防災意識を高めることを目的に、10月4日、全町一斉防災訓練を行いました。

今回は、当日午前9時に鳥取県西部を震源とする震度6強の地震が発生したことを想定。午前9時にサイレンを鳴らして、町民に避難場所へ避難するよう避難勧告を発令しました。

サイレンの後、住民らがそれぞれの仮避難所へ避難する中、町災害対策本部が設置され、町消防団も消防車や徒歩などで町内を見て回り、被害状況を役場内に設置された災害対策本部に連絡。町内各地で、いつ災害が発生しても対応できるよう訓練が行われました。

また、黒坂地区では、根雨く黒坂間で土砂崩れにより道路が寸断されたことを想定し、町などと連携し黒坂地区自主防災委員会による消防防災ヘリを使用した訓練も行われました。

訓練では、黒坂地区で3人の負傷者が発生したと想

定し、避難場所となっていた町公民館へ車いすや担架を使い搬送。日野町赤十字奉仕団が設置したエアートtentで、負傷者を受け入れ応急処置を行いました。その後、負傷者をカワコぶれあい公園に移送し、到着した県防災ヘリによる緊急搬送デモンストレーションを行いました。

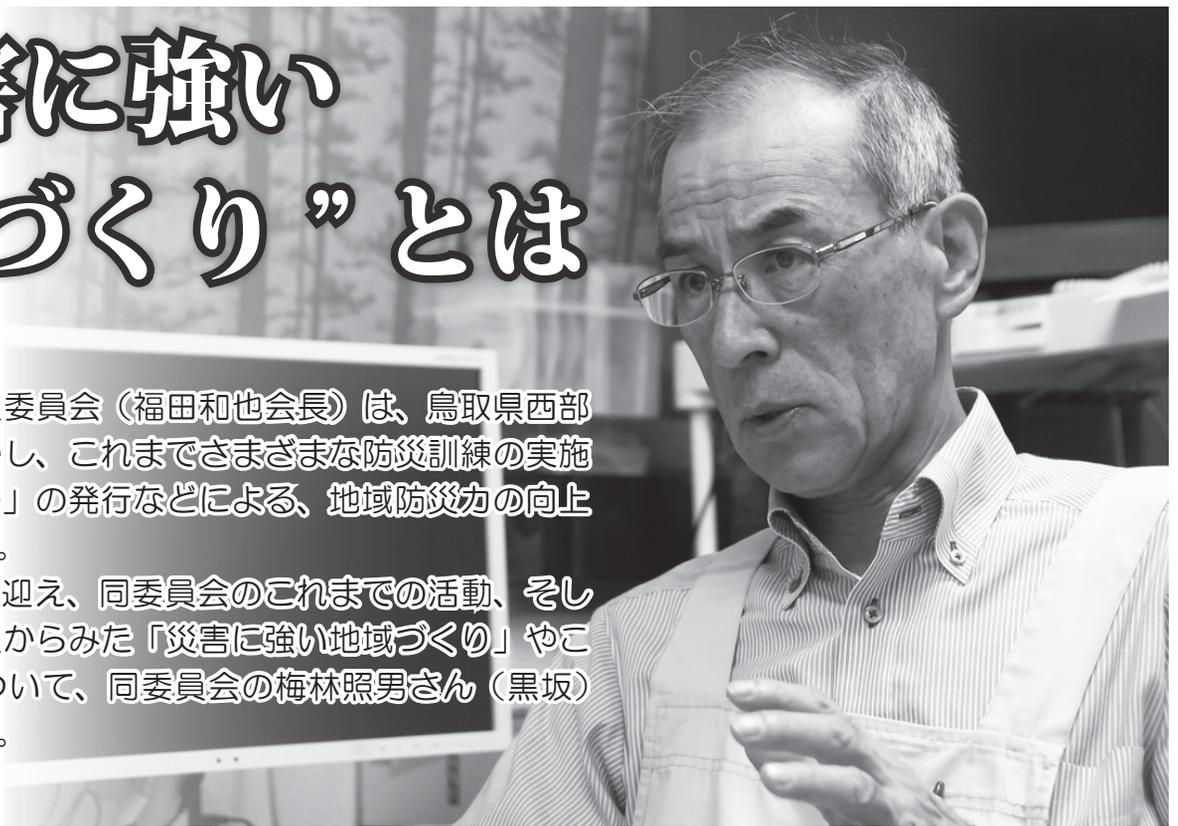
訓練後は、防災ヘリの見学会が開かれ、避難訓練の参加者らが担当者から防災ヘリの役割や救助機材の説明などを受けました。見学会には多くの子どもたちも訪れ、隊員からの説明や実物の防災ヘリコプターを見て防災への関心や意識を深めた様子でした。

今回負傷者の1人として防災ヘリ搬送に参加した升井敏雄さん(黒坂)は、「初めてヘリコプターに乗ったが揺れはほとんどなかった」と驚き、「ヘリを使った訓練は普段なかなかできないからこそ、各関係機関との連携など、今回の訓練はいろいろな面で今後役にたてるのでは」と話していました。

# “災害に強い地域づくり”とは

黒坂地区自主防災委員会（福田和也会長）は、鳥取県西部地震の教訓を生かし、これまでさまざまな防災訓練の実施や「防災くろさか」の発行などによる、地域防災力の向上に努めてきました。

震災から15年を迎え、同委員会のこれまでの活動、そして自主防災の視点から見た「災害に強い地域づくり」やこれからの課題について、同委員会の梅林照男さん（黒坂）に話を伺いました。



## 初動の大切さを 教訓として得た震災

—震災から15年を迎えますが、これまでを振り返ってまずはどう思われますか。

地震が発生した時、私は店にいましたが、すぐく揺れて商品もすべて倒れ、家がつぶれるんじゃないかと思いました。そして、国道の小河内と本郷の2カ所が落石などで通行止めとなり、黒坂地区が一時完全に孤立してしまいました。役場とも連絡が取れず、自然発生的に各自治会長が集まり自主的に避難所を作ろうという話になりました。その後すぐ役場とも連絡がつき避難所の開設などが始まったのですが、発生から2、3時間（初動）の大切さを痛感したことを覚えています。

黒坂地区自主防災委員会は、震災の2年後の14年9月に立ち上げ、これまでさまざまな防災訓練や「防災くろさか」の発行などを行ってきました。訓練もはじめは地震を想定していましたが、その後、土砂災害に対応した訓練に変わり、その中で土砂災害時には開

けない避難所もあることが分かり、避難所の再考といったことも行ってきました。

また、15年もたつと被災者意識も薄れてきます。それを思い起こすために訓練を通して危機への対応をよみがえらせる。それが15年という節目や防災訓練の良いところだと思います。

—これまでさまざまな防災訓練を行われてきたと思いますが、避難体制など地区の状況を踏まえどのように工夫されてきましたか。

地区も15年がたち高齢化が進んできました。「若い人に頼る」ということができなくなり、「じゃあ、みんなで助け合って支え合って避難しよう。それを日ごろからつくっていこう」という流れになりました。「向こう三軒両隣り、声掛けをする」など、地区内でグループ分けを行い、助け合いの仕組みづくりをしました。水害時には、水で足元をすくわれないようにとロープを活用し避難する体制もつくりました。そのおかげで高齢者などから大変喜ばれています。

## 地域と行政がいろいろな役割分担を持つことが 減災につながる

—これからの自主防災や地域の防災のあり方についてどう思われますか。課題なども踏まえお聞かせください。

震災時に黒坂地区が一時孤立化したことなどから、地域として初動体制がどう取れるかが重要になってくると思います。地震や土砂災害など、災害対応にはきりがありませぬ。しかし、自主防災については「初動に何ができるか」、これに尽きます。

役場も災害発生時は来られないことが多い。そんな時、「地域がまず動き、役場の手助けをする」ということを今後模索していく必要があると考えます。例えば、地区で先に仮避難所を設置し、行政が到着してから避難所へ移行するといったものです。地域と災害体制（行政）が連携していくことが重要で、地域や行政がいろいろな役割分担を持つことが減災や災害に強い地域づくりにつながると思います。